



㈱マザーズえりあサービス  
代表取締役社長

三浦 摂郎 氏

みうら・せつろう 昭和38年東京都生まれ。明星大学大学院修了。米国L&H、米国FRCマネージメント社を経て社会福祉法人仙台キリスト教育児院に勤務。その後同社を設立、保育園を開設し、平成19年東北こども福祉専門学院を開校。

# 業界での評価が高い 保育士養成に力を注ぐ

質の高い保育士養成で定評のある東北こども福祉専門学院。同学院を運営するのは、東北で初めて認可保育園を運営する民間企業の㈱マザーズえりあサービス(仙台市)。待機児童解消のため保育園が増加し、保育士の需要はますます高まるばかり。同社の三浦摂郎社長に学院運営などについて伺った。

——待機児童解消に向け、各自治体の動きが活発になっています。

三浦 これからの人口減少社会では就労人口の確保が重要です。

そのためには女性の力が欠かせません。女性が働き続けられる社会環境の整備が急務で、やはり保育園の充実が必要です。働きながら子育てできる環境は、子育て世代の男性にとっても働きやすいわけですから、0歳児から学童保育まで安心して預けられる施設の整備と保育士の質の高さが求められると思っています。

——東北こども福祉専門学院の卒業生は即戦力の人材として業界

の評価が高いですね。

三浦 当学院は仕事や子育てをしながら保育士や幼稚園教諭の資格が取得できるように、近畿大学豊岡短期大学・近大姫路大学と教育連携を結び、資格取得に必要な単位に絞ったカリキュラム構成になっています。保育園は乳幼児教育の最前線であると同時に、利用者のニーズに応えるサービスでもあります。より良いサービスを提供するためには質の高い保育士が必要で、子どもにとっては人生で初めて出会う先生であり社会ですし、保育士は子どもに接すると同時に保護者にも接しますので、いろいろなタイプの保育士が必要です。社会経験のベースの上に専門知識が加わることで、さらに、年齢も経験も異なる学生同士が助け合いながら勉強する環境が、質の高い、即戦力の人材を育んでいると思っています。学院は少数精鋭で徹底した実践教育に力を入れていますので、就職先から「社会経験があるので安心して任せられる」というお声をいただき、大変うれしく思っています。

——入学希望者のために社宅の学生利用を始められました。

三浦 おかげさまで卒業生は100人を超え、皆希望の職場で活躍しています。就職先も県外に広がっており、保育士の争奪戦はすでに始まっているのですが、卒業生の紹介などで県外からの入学希望者も増えています。働きながら学業と両立するのは大変ですので住宅費の軽減になればと、市内泉区に整備した社宅を学生も利用できるようにしました。

——幼保一元化への対応は。

三浦 幼保一元化に向けた制度改革はまだ先が見えない状況ですが、保育士の需要は確実に増加していますので、提携校との連携を深め、既に保育士が幼稚園教諭のどちらかの免許を取得している人が、持っているない免許を取得できるように整備していきたいと考えています。

——今後の展開は。

三浦 弊社は現在、保育園(認可保育園2園、せんだい保育室A型2園)の経営と学童保育、東北こども福祉専門学院の運営の他、訪問介護・障害者自立支援やベビーシッター派遣などを行う㈱マザーズありすサポート、不動産管理部門の㈱エリア・コンセプト、福祉コンサルティングの㈱マザーズ福祉研究社、会計管理などを総合的に行う㈱マザーズ・ロジスティクスとの5社体制で子育てから高齢者、障害者までトータル的な福祉サービスを行う企業です。これからも地域に選ばれる、質の高い保育園を目指して、人材の質を保ち続ける努力をしていくことに注力し、ニーズに合った場所に開設できる準備はしていきたいと思えます。